

愛媛支部

四団体学習会

1月20日(日)に、四団体学習会が開催されました。毎年1月に行われる、愛媛県内のろう者や手話に関わる仲間が集まって学習と交流を深める恒例の行事です。

今回は、「手話言語条例」と「災害」について学習しました。グループディスカッションでは、ろう者を取り巻く現状と今後望むことについて話し合いました。最近、日常生活の中でのコミュニケーションの問題は少しずつ改善されてきていると言われますが、実際にはまだまだ問題が残されていることがわかりました。手話言語条例制定に向けた準備を進めるうえで、しっかりと現状を把握し、愛媛にどのような条例が必要なのかをよく考え、話し合う必要があると感じました。

まだ記憶に新しい西日本豪雨災害の報告も行われました。災害発生時の大変な状況を知れば知るほど、今度何か起きたときにはどうなるのだろうか、適切な対応はできるのだろうか、と心配になります。ちょっとした機会に災害について話し合ったり、情報交換をしたりすることの積み重ねで、対策をしていかなくてはならないと思いました。



思い出多き 香川手話フォーラム

香川支部

2月17日(日)香川県社会福祉総合センターにて、第26回香川手話フォーラムを開催しました。毎年恒例の県聴障協会との合同の行事で、通研の会員19名と聴障協会・賛助会員・講座受講生あわせて61名の参加がありました。

午前中は、ろう漫画家の平本龍之介氏をお招きし「平本龍之介の漫画魂」「海外旅行体験談+インド旅行映画」と題して講演と映画上映が開催されました。子どもの頃から絵を描くのが好きで、当時の映像が紹介されました。DVDの構成も漫画家らしく、イラスト入りで観ているだけで楽しくなります。たくさんの苦勞を乗り越え、努力を重ねた平本さんに勇気と元気をたくさんいただきました。午後からは3つの分科会に分かれ『手話』『国語を学ぶ』『教育』と、どの分科会も趣向を凝らした内容で大いに盛り上がり、お互いに学び合うことができました。

26回続いたフォーラムも、今回が最後ということで少し寂しく感じますが、また次回からは形を変え新しくスタートします。益々進化しつつある「香川県」に、乞うご期待を(*^_^*)!!



あさいと 福祉

定例学習会

今年度最後の定例学習会が2019年1月20日に行われ、会場の高知県聴覚障害者情報センターに集まった8名の参加者と一緒に、「意味をつかむ」学習をしました。初対面の人もいたので自己紹介・ウォーミングアップの後、まずは上位語と下位語を考えてみました。例えば、「電車・バス・地下鉄・モノレール」は下位語ですが、その上位語は何? 『乗り物』や『交通手段』『移動手段』『交通機関』等が出ました。使う状況や対象に合わせて、対象が子供たちなら『乗り物』ですし、社会人なら皆から出た言葉や『公共交通機関』などの適切な言葉を使うことを確認しました。

次は『よく』と『耳』を使った文の意味をつかんだ表現を考えました。ワイワイガヤガヤにぎやかに、各々が意見を出し合うことで、色々な意味が見つかりました。

最後に、過去のへんしもの投稿記事の中から面白い文章を取り上げ表現の工夫を考えました。

手作り学習会の企画は大変ですが、集まってくれた仲間の笑顔が、力になります。

高知支部



2018年度徳通研を振り返る

昨年4月28日に総会を開催。年間事業計画に従って活動を進めてきました。手話通訳対策部は毎月「手話 Café (ゆびっち®)」を開催し、来店客からの評判もますます

でした。

組織部活動は、北組織部では「1day学習会」として活動をするなど、地域の聴覚障害者との交流や学習を深めることができました。年が明けてからも各種行事を行い、1月27日(日)南組織部で馬場博史氏を招いての学習会の開催、3月3日は、西組織部の「聴覚障害者と学ぶ健康講座」を継続開催し、今回は災害時の口腔管理について歯科衛生士の話と昨年4月に災害支援物資調達拠点として建てられた「徳島県立西部防災館」の見学を開催しました。また、他団体と共同で2月11日(月祝)、映画「虹の朝が来るまで」「海を渡る手話の少年」の上映と主演者・監督とのトークショーを開催、耳の日福祉大会では「珈琲とエンピツ」の主演の太田辰郎氏の講演を大勢が聞きました。

支部としては会員数が伸びなかったもので、次年度の課題として、さらに活動を強固のものにしたいと思います。

徳島支部

